

高齢者グループリビングの居住者が考える 認知症発症時における居住限界と相互扶助の実態

The Limit of Elderly Shared Housing That Residents Conceive at The Onset of Dementia
and The Reality of Mutual Supports

○宮野 順子 *1
MIYANO Junko

The research question of this paper is below, where is the limit of elderly shared housing that residents conceive, and what kind of mutual supports actually being performed. We conduct a survey among 28 residents and 7 operators of seven EGLs(elderly shared housing) in Japan. The research methods is a self-administered questionnaire, semi-structured personal interviews. As a result, the limit of EGLs is not onset of dementia. It depends on the elderly personality and the relationship with residents. If dementia onset occurred, they provided very trivial mutual support, and they could keep living at the EGL.

キーワード：認知症 高齢者 グループリビング 相互扶助

Keywords : *Dementia, Elderly, Elderly shared housing, Mutual support*

1. 序論

1.1. 研究の背景

急速な少子化、未婚化により、今後我々が直面する時代は、「子をもつ高齢者が少ない時代」である。介護保険制度が普及し、身体介護や生活援助については、介護保険サービスを用いることができるようになってきている。しかし、精神的な支援については、未だ「子」が担っている^{注1}。「子をもつ高齢者が少ない時代」において、精神的な支援については、「知人・友人」による相互支援が重要となる。

高齢者グループリビング（以下 EGL）は、10 人程度の高齢者の共同居住である^{注2}。独居の孤独を解消し、食事を共にする機会を持ち、身体機能の低下により、外出に制約がある高齢期においても、日々の居住者同士の交流が期待できる。若年層に近年普及したシェア居住と同様、複数の個室と共用のキッチン・浴室等で構成される。食事づくりや共用部の清掃を外部委託したり、運営者が生活サービス費を徴収し担うことが多い。他に高齢者事

業を担う運営団体が運営を担うこともあれば、高齢者グループリビングのみを運営する運営団体も存在する。常駐のスタッフは、日中のみ配置したり、隣接する施設の職員が兼任するものもある。夜間は不在である。

高齢者施設や高齢者住宅と類似するが、効率的に介護をうけることを目的とした集住ではなく、居住者間の交流を目的とする点で大きく異なる。居住者は制約が少なく、自立した暮らしを希求している。居住者は自立した存在として扱われ、居住者会議などに参加し、自ら生活を構築している。大半の高齢者が自らの選択でこの住まい方を選んでおり、非常に満足度の高いことが確認されている^{注3}。日常生活において、高齢者の主体性や社会性が維持されることから、健康寿命の延伸効果が期待できる。

この住まい方の有用性については、家族社会学、社会福祉学、老年社会学などさまざまな学際的な視点からの説明が期待される。建築学においては、高齢者施設や高齢者住宅、あるいは高齢者の住まいと比較し、社会のニーズに応える住まい方の一つとして、その実態を明らかに

*1 武庫川女子大学 准教授・博士（工学）

Associate professor, Mukogawa woman's University, Dr.Eng

することが求められている。

1.2. 研究課題、目的

執筆者ら^{注4}は、長年、EGLについて研究を進めてきた。土井原ら^{注5}は、運営主体に着目し生活の変遷を明らかにしている。執筆者ら^{注6}は、先駆的なEGLの25年間の事例における、居住者の変遷とそこでの生活の質について、運営者の著書から明らかにしている。その後も、複数のグループリビングについて^{注7}、運営者を対象にインタビュー調査居住者の変遷からその運営の実態に迫ってきた。

EGLは、健全な高齢者を対象としているが、高齢者であるため、心身機能の低下は不可避である。特に認知症の症状が、居住継続を困難にする最大の契機と考えられる。安定的な高齢者の居住を担うために、その居住限界がどこにあるのかを明らかにすることは、常々課題とされてきた。

研究の研究課題は以下である。1) 居住者の居住継続意向は、心身機能の低下におけるどの段階までか、そして、2) EGLの居住限界はどこかである。これらを問うなかで、3) 居住継続を支えているものは何か また、同時に4) 居住限界を抱えながらも、あえてEGLに住む価値はどこにあるのか、つまり、EGLの最大の特徴である居住者同士の交流があるのかという課題についても見えてきた。

したがって本稿では、これらを居住者の視点から特に認知症発症時に着目して、明らかにすることを目的とする。

1.3 研究の方法

高齢者グループリビング運営協議会が中心となって、運営者、居住者を対象に調査を企画した^{注8}。高齢者グループリビング運営協議会は、高齢者グループリビングの先駆けであるCOCO湘南台を参考にして建設されたグループリビングの運営団体、居住者、建設希望者および研究者（建築学、家族社会学、社会福祉学）が所属する団体である。執筆者はこの団体に所属する他の研究者と共に研究に参画している。この調査では、アンケート調査、インタビュー調査が実施された。執筆者は主にインタビュー調査の企画を担当し、本研究ではこれをもとに分析を行っている。

1.4 調査対象

高齢者グループリビング運営協議会に所属するEGLのうち、協力が得られた7つのEGLを対象とした。表1に示す。所在地は全国に分布する。運営開始後6～21年が経過している。5～10人が入居する。居住者の平均居住年数は2.95～9.06年であり、平均要介護度は0～0.88

と比較的低く健全な高齢者である。居住者の基礎情報は、運営者に対するアンケート調査結果から得られている。

表1 インタビュー調査の概要

GL	所在地	GL開設年	入居者数	室数	居住者の平均要介護度	居住者の平均年齢	居住者の平均居住年数
A	北海道登別市	2006	7	9	0.45	91.71	5.43
B	埼玉県新座市	2011	9	10	0.39	84.67	7.22
C	神奈川県川崎市	2015	8	10	0.00	83.63	4.76
D	神奈川県川崎市	2003	9	10	0.72	79.67	4.71
E	神奈川県川崎市	2014	10	10	0.20	78.10	2.95
F	神奈川県藤沢市	2000	6	10	0.63	85.33	9.06
G	兵庫県高砂市	2010	5	7	0.88	87.20	6.00
対象者			合計		平均値		
居住者全体			54	66	0.43	83.7	5.51
インタビュー対象者			28	-	0.58	83.3	5.53

1.5 調査概要

表2にインタビュー調査の概要を示す。オンライン会議ツール(zoom)もしくは電話にて実施した。実施方法は居住者に対する個人またはグループインタビューである。グループインタビューには、運営者が同席している。個人インタビューでは、運営者は同席していないが、途中、機器の操作の補助等に入ることはある^{注9}。インタビューは複数の研究者で担当している。半構造化した設問項目を用いた。表3に示す。文脈情報が多く得られること、回答者が自由に回答できるという特徴があり、居住

表2 調査対象GL一覧

GL	対象者数	実施日	時間	方法
A	2	2021.7.20	93min	個人インタビュー
B	5	2021.7.26	311min	個人インタビュー
C	1	2021.6.10	35min	個人インタビュー
D	8	2021.8.2,3	414min	個人インタビュー
E	5	2021.7.15	196min	グループインタビュー + 個人インタビュー3人
F	4	2021.7.19	190min	個人インタビュー
G	3	2021.8.5	200min	グループインタビュー

表3 インタビュー項目

1. 居住層はどれくらいか？
2. いつまで住みたいか？（居住継続意向）
 - 認知症がすすんだとき、自分はどうか？
 - 他の居住者が認知症になった時どう思うか？

者の内面に迫る本研究課題に適していると考えた。インタビューは一人当たり、35～66分と長時間に及び、ここで示した構造的な設問の想像をはるかに超え、多岐にわたる具体例を伴い、また心的内面に迫る回答が得られた。

1.6. 調査対象者の概要

インタビューの対象者は28名(51%)である。平均年齢は(全体83.7歳/インタビュー対象者83.3歳)、平均居住期間(全体5.51年/インタビュー対象者5.53年)、平均介護度(全体0.43/インタビュー対象者0.58)であり、インタビューの対象者の属性は、居住者全体とほぼ一致している。表1下部に示す。

1.7. 分析方法

インタビュー音声の文字起こしを行い、ひと続きの会話を1つのパラグラフとして抽出した。抽出したパラグラフは161であり、1つのパラグラフは平均167文字(最大1338,最小28)である。表4に示す。パラグラフの内容から帰納的に8つのパラグラフカテゴリを生成した。表5に示す。なお、インタビューによる相槌、同義の言い換えは(中略)にて割愛した。「1,居住の経緯と年数」については、インタビュー導入時の、相互理解、信頼関係醸成のための部分であり、分析を割愛している。6～8については、誌面上割愛する。当初想定した構造的な設問に沿って、カテゴリ2,3について分析を行い、次に、その話題の中ででてきたカテゴリ4,5について分析を進める。なお、パラグラフ数の多いカテゴリ2-4については、その内容をサブカテゴリに分けて分析を進める。カテゴリ5については、具体的な内容を把握するために適切と考えて、サブカテゴリのレベルを他のカテゴリよりも詳細に分析を行った。なお、本文中および表7,9,11,12における「A1-111」の表記は、「表1におけるグループリビ

表4 1パラグラフあたりの文字数

パラグラフ数		1パラグラフあたりの文字数				
161	最大値	1338	最小値	28	平均	167

表5 カテゴリとパラグラフ数

カテゴリ	パラグラフ数
1 居住の経緯と年数	-
2 居住継続意向	33
3 認知症発症時の居住継続の是非について(これまでの居住者の様子を見て)	26
4 居住者同士の関係	29
5 相互扶助の様子	52
6 運営者と居住者の関係	3
7 住まい方に対する想い、理念	8
8 その他	10
合計	161

グの記号,被験者の識別番号-パラグラフ番号」を示している。

2. 居住継続意向

2-1. サブカテゴリごとのパラグラフ数

居住継続意向に関するパラグラフは、32つ存在する。並行して実施したアンケートに同様の設問があり、回答内容と一致したため、サブカテゴリとして設問項目を採用した。表6に示す。順に、サブカテゴリごとに分析を進める。表7にその内容を示す。

表6 「2. 居住継続意向」のサブカテゴリ

2. 居住継続意向	パラグラフ数
1. 最期まで住み続けたい	7
2. 最期まで住み続けたいが、病気などで叶わないこともあるだろう	14
3. 介護ニーズが高くなったら施設へ転居したい	10
4. わからない	1
合計	32

2-2. 「最期まで住み続けたい」

「1. 最期まで住み続けたい」は、7つであり、「入居時からそう約束している 42-B7」「皆ここが最期の家だと思っている 157-G5」と盲目的なコメントあるいは、「親族に迷惑をかけたくない 144-F6」「人間関係がすばらしいからここにいたい 113-E4」など、限界は知りつつ、やはり、というコメントもみられた。

2-3. 「病気などで叶わないこともあるだろう」

「2. 最期まで住み続けたいが、病気などで叶わないこともあるだろう」は14つみられた。「認知症の程度による 119-E6」「特浴がないから 18-C3」など、認知症や介護について十分な知識と照らし合わせた回答や、これまでの居住者の動向を見てきた経験などから判断した回答がみられた。また、同時に「ものすごく心配 77-D3」,「ものすごい不安 150-G1」「いつかは出されるのかな 66-D10」など、先行きの見えない様に不安を感じている様子も伺えた。

2-4. 「介護ニーズが高くなったら施設へ転居したい」

「3. 介護ニーズが高くなったら施設へ転居したい」は10みられたが、内容では、「2.」と同様、「排泄解除は無理、訪問看護で対応するよりは施設の方が良い 101-D7」など、GLの現状の介護力と他の施設の状況を鑑みて判断している回答、「迷惑かけてまでいたくない 84-D4」「自分が老いていく姿を見られたくない 102-D7」など、集団の中での自分の見られ方を気にする回答も見られた。

表7 「2. 居住継続意向」のサブカテゴリごとのパラグラフ

「最期まで住み続けたい」(7)	
入居したときから、もう約束してるんです。ついのすみかですからということで、とにかく亡くなるまでいたいと思っております。 42-B7	動ける限り住みたいです。(動けなくなったら?)(親戚に負担をかけるので)やっぱりここでいたいですね、ずっと。_ 144_F6
この前、アンケートさしてくださったから、そのときに、皆、もうここが最期のとつての家やと思ってから、いまさら、なんでこんなことアンケート採るの?と思ったぐらい。 157-G5	(前略)いろいろ考えたんですけど、やっぱりここを運営してる人たちの考え方とか、人間関係とか、そうなのがすごく素晴らしいなっていうことで、やっぱりここで最後までいたいなっていうふうになるようになったのが最近です。 113_E4
「叶わないこともあるだろう」(14)	
私、骨折したとき(中略)自分で自分のことができなければ駄目らしいってことを聞いたもんですから、すごく心配しました。今のところは大丈夫ですけど、ただ時々ふっと、これが限度かなと思うこともあります。毎日のことでも買い物は行かれないし、銀行も行かれないっていう状態ですから、何でもお願いしなきゃなんないですから。(後略) 77_D3	私は最期までお世話になろうと思っています。ここで、この生活が無理になれば、上のランクの施設にするっていうふうには考えています。皆さん、そういう形で移っていかれる方もおりますので、(後略) 138_F4
(前略)意思能力がある場合に、食事、排せつまでだったら何とかなると思うんですけど、ここ入浴が寝たきりの特浴がないですね。だから、入浴が寝たきりさん用の特浴が必要になったら暮らせませんね。(後略) 18_B3	(前略)認知症軽症でも、かなり。ここにいらした、認知症軽症、中症ぐらい(中略)の方と2年ぐらい一緒にいたんですけど、あの方の様子を見ると、認知症になっても、しばらくはいきたい。いけるような場所になりたい。でも重症になったら、やっぱりどれまで行けるのかなと思ってますけど。(後略) 119_E6
ここに入って見て皆さんをずっと見てると、いつが出来るのかな、出ていかなきゃいけないのかなって思ってますけど。(後略) 66_D10	いや、今、ものすごい不安なのは、(中略)ちょっとぼけてきよんかなとか、そのときがどうなるんやろうかなと思って。それで、私、今は「ぼけたこと言いよったら言うてね」とか「お願いします」とか言うてるけど、(中略)ただそこへ行くまでが、やっぱりどうなるんやろうかなと思って、心配はしてます。言うに言われへんけどね。 150_G1
「施設へ転居したい」(10)	
例えば寝たきりの状態。下の世話を誰かにしてもらおうようなことになったりとか、食べ物が自分で口に入れられなくなったら、もう私はここでは無理だなと思いますね。(後略) 101_D7	訪問看護よりかは、やっぱりそういう施設に入って、全部そういうふうにしてもらったほうが安心。ここはだって全部、訪問看護じゃない人も、いろんな人も一緒に住んでいるわけじゃないですか。そうすると皆さんにご迷惑掛かるし、自分がいじけるんじゃないですけど、なんか寂しくなっちゃうような気がするんですよ。元気な人もいるし、自分が老いていくっていうのは。(中略)あまり自分が老いていく姿を、自分だけが心配してて、皆さんにどんな目で見られているのか。もっとフランクに言い合って、頑張ろうねっていう感じになったらいけるかもしれないですけど、今のところはそういう雰囲気がないし、そういう場所ではないと思うんですけどね。 102_D7
でも一日、年老いていくから、こちらのほうにお世話になって迷惑かけるようになってまではいたくないね。こちらは介護があるわけじゃない、自立した方たちばかり入る所だから、あまりぼけないで自分で自分の用が足りるうちはいいけれども、(中略)サポーターの人たちにご迷惑かけるようまではなりたくないし、そんななっていたくはないです。 84_D4	

2-5. 小結

居住継続意向に関するパラグラフでは、居住者が「最期まで住みたい」けれども「叶うかどうかわからない」あるいは「老いていく姿を見られたくない」と葛藤する様子が確認できた。運営者との、あるいは居住者間の関係性の中で考えができていると考えられる。

3. 認知症発症時の居住継続の是非について

3-1. サブカテゴリごとのパラグラフ数

認知症発症時の居住継続の是非についてのコメントが得られたパラグラフは、26つ存在する。特に、観念的なものではなく、これまでの居住者の様子を見た経験をもとに述べられているものである。論理展開から、表8に示したように「お互い様、明日は我が身」「居住限界についての考え」「発生したトラブルをもとに」と3つのサブカテゴリに分けて分析する。表9にその内容を示す。

表8 「3. 認知症発症時の居住継続の是非」についてのサブカテゴリ

3. 認知症発症時の居住継続の是非について	パラグラフ数
1. お互い様 明日は我が身	5
2. 居住限界についての考え	8
3. 発生したトラブルをもとに	13
合計	26

3-2. 「お互い様 明日は我が身」

「1. お互い様、明日は我が身」のサブカテゴリに分類された5つのパラグラフでは、「自分もいずれはそうなる**10-A6**」「お互い様で微笑ましく思う**61-D1**」「まかり間違えば逆の立場**78-D3**」など、認知症を発症した居住者に対して、同じ立場になりえると自分も考えて、「寄り添っていきいたい**78-D3**」「対応できるようになった**61-D1**」など積極的に捉えられているものもあれば、あるいは自分自身に置き換えて、「鬼気迫る**104-D7**」であったり、「受

表 9 「3. 認知症発症時の居住継続の是非について（これまでの居住者の様子を見て）」のサブカテゴリごとのパラグラフ

「1. お互い様、明日は我が身」(6)	
<p>自分も、いずれはそんななるんだろうなと思うけどね。(中略)「なんかしてあげようと思って、深く入れられない。深くは絶対ね。私らは素人だし、ヘルパーさんでもないんだから、やっぱりね、出していることと悪いことと、考えなくちゃいけないから。10-A6</p>	<p>嫌ってということはないです。自分もなり得ますし、なるんじゃないかなと思ってますから。(中略)嫌とは思いませんけど、受け入れに対して難しいところがありますよね。明るく受け入れればいいけど、あの人、またやっちゃったよとかいう話で出ちゃったら嫌ですもんね。だから、みんながそのときは明るく受け入れられるような、笑い飛ばせるような、そういう雰囲気にはいつも持っていたいと思いますよね。103-D7</p>
<p>(前略)ですからお互いさまでほほ笑ましく思うときと、すごい身体的な、けがしないかなとか大丈夫かなっていうような思いとかはありましたけども、すごく大変でしたっていう思いはなかったですね。私自身がだんだん自分で対応できるようになったので、その認知症の方がそういう行動を取ったときに、自分が動けるからこういう動きをすればいいんだなみたいな対応できてたので、ぱちんとぶつかってすごい大変っていう思いはなかったです。ただ心配はありましたね。大丈夫かなっていう。61-D1</p>	<p>明日はわが身と思っております。(中略)しょうがないっていう感じではないですね。何ていうんだろう。もっと鬼気迫る感じですね。(中略)不安になるっていうより、なんでしようね。これは何ていったらいいのかしら。自分もいずれなるんだろうなって。104-D5</p>
	<p>私になつたらどうしようもないけど。だけど軽いうちだったらいいですけどね。だけど私もまかり間違えば逆の立場になると思うと、私もそんなに、できるだけその人に添っていきたくと思いますけどね。78-D3</p>
「2. 居住限界についての考え」(8)	
<p>心身の状態じゃなくて、その人がどういうふうに生きたいか。それから、この中で許容される範囲で収まるかということですよ。(中略)昔、もう4、5年前、認知症の方、1年だけ預かったときは、お薬飲めないでみんなが食事のとき見てて、お薬飲むかなんか、全員で確認してたんですよ。その方は外へ出掛けたい人だったので、みんなが何くれとなく見てて、外へ出て行こうとしたら、「もう夜になるから、明日にしよう」とか、なんか引き留めてたんです。それで1年間見て、隣のグループホームに入ったんですね。そうしたら、あっちはその人が一番こっちがしっかりしてるから、すごい伸び伸びと暮らせるようになったんですけれど。(後略)20-B3</p>	<p>今でも嫌だなって思う人はいますよね、確かに。それは誰でもみんな嫌だと思ってることなので同じなんですけど。私、認知症のお勉強もっとしなくちゃいけないかもしれないんですけど、私の考えでは、私の知る限りでは認知症はプロの方じゃないと。私の母も少し(中略)5年ぐらい介護したんですけど、あれはプロの仕事じゃないかな。家で、家族で見るというのは無理で。ましてやこういう集団の中で見るのは、その方にとっても幸せかどうか。92-D6</p>
<p>(他の居住者のお世話はどこまですべき?)要するに、ご町内っていうかな。で、助け合える程度。お隣の家とか、ご近所さんが助け合える程度までです。だから道を歩いてても例えば老人が転んで起き上がれないと、どっか痛がっている、骨折でもしたんじゃないか。そういうのを見ると普通の人だって救急車ぐらい呼びますでしょ。だから常識の範囲での助け合い。(後略)22-B3</p>	<p>あの人はそういう傾向にあるなっていうことは分かってても、それだけにこちらが対応していけば、また素直に、今までのような対応の仕方をしてくださるし。(中略)、それらとどううまく対応していったらいいかっていうことも、皆さん、ああいうふうな状態になっていくのが、これからの年寄りだからっていうことですね。やっぱりそこら辺は、うまく対応していられるようになっていくから、あまりその人が疎外されたりというふうなことはありませんね。134-F1</p>
<p>(認知症の方は?)いらっしゃいますけれども、やっぱり、その方はここが合ってるんじゃないかなと思うので、できるだけ、病気でどうしても入院しなきゃいけないとか、そういう以外はここで暮らしていただけたらとは思いますが。47-B9</p>	<p>前の方たちが皆さんお年召されて、他の施設へ出したんですけれども。たまたまその方たちはご家族がこっちにいらしたので、そういうことになったんですけれども、私みたいに家族のいない者は、これから先、本当に考えなければいけないことなの。142-F5</p>
<p>(困るとか)そう考える余裕もなく、いらした方が認知症になられてみんなの不都合が起きないうちに他に移られて、今は皆さん、あれな人ばかりですからそういう対面したこと、困ったりしたことはありません。71-D2</p>	<p>女性同士の場合だったら、助け合いだとか、女性特有のこまやかさで面倒見てあげるっていうふうなことはあり得る話かもしれないけども、男が女性に対してそんなことできないしね。変な形の認知症で、暴れるとかどうのというふうなことではなければ、女性だけの場合だったら、(中略)結構ここに住んでいられるんじゃないかと思いますが。132-E9</p>
「3. 発生したトラブルを元に」(13)	
<p>(前略)スイッチがあればスイッチというスイッチは全部いじって歩く人がいるんです。(中略)あるいは、こっちが用があって電気つけてなんかここで用をしているときに、真っさなかに電気を消されちゃうとか、そういうのが本当毎日のようにあります。(後略)24-B3</p>	<p>(入居したとき認知症の方がいた。)(中略)全然、普通なんですよ。(中略)お風呂もずっと一緒に入ってたんですね。(中略)お薬の管理ができなくなってるのを気付いたんですよ。それで、やっぱりケアを増やしまして、(中略)したら、ものすごく拒否反応を起こして、自分は認知症じゃないって(中略)。最後は強制入院みたいな形になったのが、とっても残念で。116-E6</p>
<p>(前略)お風呂沸いたわよって、3回も4回も来られると、それが毎日だと、ちょっと。(中略)もし、よそ(グループホーム)に行ったら、狭いから外に出ちゃうんじゃないっていうふうに、(中略)だから、逆に、ここにいたほうが、いいんじゃないのっていう考えですね(後略)。37-B6</p>	<p>そういう方いて。隣のお部屋の人が面倒見ながらも、とてもとても面倒見るといってこままでいけなくなると、この職員の方に言って、おうちの方に連絡してもらって、(中略)レンジでチンして、ぼっと火がついた。(中略)火事になったら危ないからって。ちょっとぐらいの面倒は見ても。145-F6</p>
<p>(前略)やっぱり自立っていうのがこの基本的な建前で、自立っていうのに、ちょっと該当しないんじゃないかなっていう。(中略)結局、今は介護付きの有料の所に移ったんです。外へ出て行っちゃうっていうふうな問題だったんですけど、やっぱり常に誰かが見守ってないと駄目っていう状態だと、ここには入れられないのかな。だから嫌とかそういうことよりも、悲しくなっちゃった。114-E4</p>	<p>お薬のせいで、「私、おかしくなる」ばかり言っていて、そんなこと考えたらあかんて分かんねえ。「そんなときなるまで考えたらあかん」って言うのに、すごく気にばっかしはった。159-G5</p>

け入れが難しいところもある 103-D7」など、不安を感じたり対応が難しいと感じることもある様子が伺えた。

3-3. 「居住限界についての考え」

具体的事例を元に自身の居住限界についての考えを述べられたものが8つあった。これまでの経験から、「その方はここがっているのではないか 47-B9」「うまく対応できているので疎外されることはない 134-F1」と居住継続できているものもあれば、「ご町内で助け合える程度の範囲 22-B3」「認知症はプロの方でないと 92-D6」など、支援の程度について述べるものもあった。あるいは、「女性だったら互いの配慮ができるから結構住める（が、男性はそうではない。）132-E9」など、女性が多い居住者構成から言及するものもあった。また、他の施設に転居する契機について、「家族がいたから（意思決定ができて）他の施設へ出した 142-F5」「不都合が起きないうちに他に移られる 71-D2」など、本人以外であるからこそ、転居の意思決定ができて、「家族のいないものは考えなければならぬ 142-F5」など、その契機について心配される声も聞かれた。また、20-B3では、「認知症の方を1年だけ預かった」と表現し、その際に服薬や夜間の外出を引き止めるなどの支援を「みんなで」していたと述べる。隣のグループホームでは「その人が一番しっかりしている」「のびのび暮らせるようになった」と述べている。

3-4. 「発生したトラブルを元に」

発生したトラブルを元に居住限界について述べるものが13つあった。具体的なトラブルは、「スイッチを消される 24-B3」「お風呂に何度も呼びにくる 37-B6」「外へ出ていっちゃう 114-E4」「認知症じゃないと拒否反応を起こした 116-E6」「レンジで火がついた 145-F6」といったものだが、その結果、居住継続できている経験では、「逆にここにいたほうがいい 37-B6」だが、転居に至った経験については、「（見守りが必要な状態では居住継続できないこと）が悲しく思う 114-E4」「とても残念 116-E6」などの感想に至っている。あるいは、認知症になった居住者が「私おかしくなる 159-G5」と不安に陥っている様子も確認できた。

3-5. 小結

認知症発症時の居住継続の是非についてのカテゴリでは、具体的な経験を元に居住者自身の考えを示す内容であった。些細なトラブルについては、「お互い様、明日は我が身」と受け止めて、居住者間の支援により対応している様子が伺えた。これらは、同時に居住者間の関係性により、居住継続できるかどうかが一律ではないことも示唆している。一方で、夜間外出や火事の安全面を著し

く脅かすトラブルは、やはり居住限界につながることも確認できた。また、自分自身に置き換えて、不安や悔恨に至っている。認知症居住者が認知症グループホームとEGL、どちらが適切かについては、各々考えを巡らせていることも垣間見れた。いずれも当事者の居住者グループ内での位置付け（見守られる立場か、リーダー的立場かなど）と、それによる当事者の自尊感情の形成について慮っている。

4. 居住者同士の関係

4-1. サブカテゴリごとのパラグラフ数

居住者同士の関係について述べたパラグラフは29存在する。表10のように、「肯定的なコメント」「中間的なコメント」「否定的なコメント」の3つのサブカテゴリに分けて、分析を進める。表11にその内容を示す。

表10 「4. 居住者同士の関係」のサブカテゴリ

5. 居住者同士の関係	パラグラフ数
1. 肯定的なコメント	7
2. 中間的なコメント	11
3. 否定的なコメント	11
合計	29

4-2. 肯定的なコメント

肯定的なコメントでは、「いい人が集まる 160-G5」「一生のうちで一番楽しい 87-D4」「大勢の家族みたいな雰囲気 3-A3」「友達より親しいけど、家族まで甘えられない関係 146-F6」など、程度の差はあるが、居住者同士の関係概ね良好なコメントが確認できている。

4-3. 中間的なコメント

「嫌な人とは距離を置く 65-D1」「深入りしない 82-D3」「和気藹々じゃなくても悪くない 107-D7」「すべての人と友達にならなくていい 123-E6」「リビングでみんな食事できているからいい 79-D3」「我慢できることはして仲良く1日を過ごせればいい 88-D4」など、一定の距離感のもと一緒に暮らすことを肯定的に捉えている様子が伺えた。「9,10人がちょうどいい 75-D2」など人数規模についての言及もあった。

4-4. 否定的なコメント

否定的なコメントでは、「あまり交流がない 59-D7」「仲良しなんていない 106-D7」「バンっと生の声を聞くと傷つく 121-E6」などの意見が見られた。特にグループリビングの特徴である交流機会となる食事時間が、コロナ禍の影響を受けている様子（94-D6）も見受けられた。居住者会議を開催しているEGLが多いが、戦前生まれの現在の高齢者の受けた教育から、「議論を嫌う 95-D6」あるいは、「運営者に気を遣って、意見を言わない 27-B3」などの様

表 11 「4. 居住者同士の関係」のサブカテゴリごとのパラグラフ

肯定的なコメント (7)	
またお人がいいんですよ。やっぱり1人いい人がいると、集まるんでしょうね。全部いい人。(中略)もう本当、性質のいい方ばかりですね。 160-G5	最高いても9人だから。ちょっとだけ大勢の家庭みたいなもんじゃない。そんな雰囲気です。人はそれぞれだから分かんないけど、私はそう。 3-A3
歩けなくなったんです。そしたら、ようさんしてくれはってね。朝晩声掛けてくれはって、お隣さんやから、もうずっといろいろ気付けてくれはって。 161-G5	人って大事だし、出会っていか、本当に毎回、出会い。(中略)見学に来られたら、入居者としても、会いに行くんですよ。私は。入居者の、一応、運営委員に今、なっているので、それで「ぜひ会いたい」って言って。 122-E6
今でも楽しく過ごしてると思うんですけど本当に楽しくって、私の一生のうちにこんな楽しい人生もあったのかなと思ってました。それなのにコロナになって状況が変わりましたが、これはもう仕方がないことですし。長生きもし過ぎました。 87-D4	お友達よりかちょっと親しいけど、家族までは。甘えるっていか、お互いにべったりはできませんからね。でも、単なる、こんにちは、さようならっていうお友達ではないですよ。 146-F6
	(仲のよい方は?)今は2人ぐらいかな。(何か相談もできる感じですか。)はい。 80-D3
中間的なコメント (11)	
(前略)ちょっと合わないなと思ったら、ごあいさつはしますが極力、(中略)その方からマイナスの影響を受けないようにその方がいいところ、このところいいところ、そこばかり見るようにしたりとか。嫌な思いをするんだったら距離を置くというか、よけるタイプです、私はぶつかるよりも。 65-D1	大勢になればなっただけ、いろんな摩擦も出てくるから。息子に、ここへ入ったからには皆さんと仲良くやるようになって、あなたは自分の思い込みが激しくて思ったことずばって言ってしまったりするから、そういう余計なことは言わないように子どもに注意されて。だからなるべくそういうあれはしないようにと思って、我慢のできることは我慢して、仲良く一日を楽しく過ごせればいいなと思って。 88-D4
女の人ってごちゃごちゃ言うのが嫌いな。ごちゃごちゃ言うよね。そんなの嫌だから。(中略)聞くと、私は悪いけど関わりたくないと思っちゃって。(中略)ときはサポーターさんに何とかさんの所に寄ってって言って、その人に任せちゃう。(中略)人に深入りしないことを心掛けていますけど。 82-D3	不平は言ったら、それはいくらでも。(中略)それ覚悟で入ってるから、人との付き合い、そういう点では私には今のところ何もない。(中略)それは一つの家にいても、うちみたくきょうだいがいると、それだけでもいろいろとあるから、他人同士だから、それは私も覚悟して来てるから。別に気になることもないし(中略)、自分でこの人生楽しもうと思って、ここへ入ったんだから。(後略) 4-A3
みんなある程度の人生をやってきましたから、考え方も違うし。だから、なかなか一つになるっていうのは難しいんじゃないかなと思いますけれどもね。でも、無理に一つにしなくてもいいのかなっていう気もしますけど。大人の世界ですから。そんなに和気あいあいじゃなくても、普通にでも悪くはないのかなっていうふうには思いますけど。 107-D7	別に9人、10人。みんな、ちょっといいんじゃないですか、このくらい。(中略)あんまり身の上相談をするような仲間はいないって。(中略)まず娘に相談して、喝を入れられて。自分が好んで入っているのに何だ、その言いざまとは言わんばかりに喝を入れられますから、あんまり泣き言は言いません。 75-D2
3年目ぐらいまでは、理想を一生懸命、言っていたけど、最近、そんなに全ての人と、ここで出会ったからって友達にならなくなっちゃっていいじゃんって。この中で、ただあいさつする関係であれば、それでいいじゃんって、この頃は思えるようにはなっちゃって。 123-E6	だから、お友達は外にいるし、それはそれで親友というか、本当に話し合えるお友達は外でいいじゃんって。だから、ここでは本当に、どういふご縁か分からないけど、本当にご縁があって。同じ屋根の下に、毎日、過ごせればいいなって。だから、友達ともあまり思わなくなったというか。 124-E6
リビングでみんな食事できているからそれもいいなと思って。それとか、人との交わりも付かず離れず、いい具合に進んでましたんですけどね。 79-D3	
否定的なコメント (11)	
最初ももっとコミュニケーションがあると思って入ったんですけど、それぞれ人間が生きてきた段階が、環境も違うし、考え方も違うから。私は(中略)人とお話をするのが好きなんですけど、何だかそれが立ち入っちゃ悪いような感じとか、なんか2年半で、ちょっとそれは違ったなって思ってます。あんまり交流がないってことですね。 59-D7	仲良しなんてないね。(中略)よく話をするのは? 3人ぐらいかしら。(中略)相談ねえ。まあ当たり障りないぐらいですよ。 106-D7
自分の意志っていうよりも集団の意志のほうが大きくなってしまっ。(中略)私は食事、楽しく食べるということは一つのグループリビングのすごくいいところだと思ってたものですから、それがなくて皆さん静かにお食事を、なるべく早い時間にしてスタッフの方が早く帰れるようになっていって。私は食べるのはゆっくりで、しゃべって食べるのが好きですからそれが一番がっかりして。割とグループリビングの良さっていうんでしょうか。私が期待してたのよりちょっと、失望とまでは言わないです。(後略) 94-D6	今はばらばら、会うこともないからね。(中略)だけどこの中でしたら、女の人だけだと駄目だからミックスして、男の人少しいたほうがいいと思います。 81-D3
かなり生の声で、ばんと、汚いとか、いろんな。それぞれ生活してきた習慣があって、それが違ったりするの、ばんと見つけたりすることがあって、傷つくんですね。お互いね。この年になっても、そういうことやってるんだけど。だけど、そういう、ばんって生の声は、男性がいるときはない。 121-E6	議論が嫌いますよね。ぶつかり合うことが。反対意見を述べるのが。お世話になってるんだからとか、これからお世話になる人なんだからとか。それは感謝は感謝ですけど、私は割とそこがグループリビングのいいところだと思っているので。 95-D6
	(前略)要するに事務所から人が来ると(中略)そんな席でそんなことを、お気を煩わすようなことをしちゃいけないと。(中略)私たちはお世話になってるんだと、だから言っちゃいけないと。(中略)結局、戦前の教育の人は理解できないっていか、(中略)物事は上下関係でしか見られないんですよ。だから決められたことには従うけれど、なんか自分の意見を言うとか。(中略)そういう公的な席で言っちゃいけないっていうふうには思い込んで。 27-B3
	(居住者同士の助け合いは?)それはあんまりないですね。すぐに自分、個人、困った相談は運営者にするから、対処してください。(後略) 76-D2

子も見受けられた。「困ったときは運営者に相談するので助け合いはあまりない 76-D2」というものも見られた。

4-4. 小結

居住者それぞれにより、手放しで肯定するコメントから交流がないとする意見もあった。多くが「みんなが仲良くなってよい」と留保付きの関係性をグループリビングのそれとして肯定的に受け止めている様子が伺えた。9-10 人がちょうど良いと人数規模に言及するものもあった。一方で、居住者会議等、居住者の意見を汲み上げる機会を設けているにも関わらず、運営者に気を遣って、意見を言わないなどの様子も見受けられた。否定的な意見の中には、「思い描いた EGL の姿と異なる」など交流

を期待する声も聞かれた。コロナ禍により食事を共にする交流機会が減少した可能性も指摘できる。

5. 相互扶助の様子

相互扶助の様子の 52 パラグラフのうち、具体的な相互扶助の例を示したものが 50 つあった。1 つのパラグラフに複数の例が示されているものもあり、55 つの例を抽出することができた。これらを内容ごとに分類すると、表 12 のようになった。以下件数を () で示す。

具体的には、緊急時の対応 (4)、夜間の対応 (3) など、これまでの経験から述べているもの、災害時 (1) の精神

表 12 「5. 相互扶助」の具体例

<p>■ 緊急時対応 (4)</p> <p>救急車の付き添い 111_E1/ 救急車を呼ぶ 30-B3/ 夜駆けつける 6-A3/ 緊急時の対応 97-A6</p> <p>(前略) 中の人同士でも、お互いに助け合う、何か夜でもあったらすぐ駆け付け、(中略) それでなんかあったら、理事長のほうにすぐに電話すれば来てくれるから。そういう点では、今までは何とかやってるような気がします。6_A3</p>
<p>■ 夜間対応 (3)</p> <p>夜間警備員 154-G1/24 時間ボランティアヘルパー 31-B3/ 鍵の確認 41-B6</p> <p>ここは、夜間の警備員がいないでしょう。だから、代わりになってもいいかなと。私もお世話になって、いつかはならんなんのやから、今は、できることさしてもらおうと思って。154_G1</p>
<p>■ 災害時 (1)</p> <p>災害時の安心 53-B9</p> <p>夜も誰か必ずいるし。この間の雷のときも、みんなで「怖いね」って。とか、そういう感想が言えるかな。そういうのがいいですね。やっぱり雷とか地震とか、そういう天災のときが、一番あまかったって思います。(後略)53-B9</p>
<p>■ 食事時間に呼びに行く (4)</p> <p>食事を呼びに行く 127-E6,56-D7,33-B3,16-A6</p>
<p>■ 配膳下膳 (4)</p> <p>夕食配膳ボランティア 155-G1/ 出前時の配膳下膳 30-B3/ お膳立て 33-B3/ 食事をつくって一緒に食べる 116-E4</p>
<p>■ 見送り・出迎え (2)</p> <p>デイサービスの見送り 13-A6 / デイサービスの出迎え 51-B9</p>
<p>■ 話し相手 (3)</p> <p>話し相手 5-A3/ おしゃべり 14-A6/ 話を聞いてあげる 90-D4</p>
<p>■ 付き添い (1)</p> <p>病院の付き添い 112-E1</p>
<p>■ 気遣い・気配り・見守り (6)</p> <p>気配り 137-F1/ 気遣い 143-F5,50-B9/ 見守り 16-A6,43-B7,21-B3</p> <p>それはやっぱり、お互いに気遣いはしてると思います。何をというんじゃないって、何となく何かあったらいけないとか、あげたいとかってのを大抵そう思うって思います。143-F5</p>
<p>■ 声かけ (6)</p> <p>扉をトントン 68-D10,49,50-B9 おいしいから食べて 15-A6, 声かけ 85-D4, 差し入れ, ドアが開いていれば声を掛ける 89-D4</p> <p>(居住者同士の助け合いは?) それほとんど毎日かしらと思ってます。ちょっと見えなくなったりすると、すぐ声掛け合ったり、大丈夫? っていうふうにとントンとして、お部屋に入る前の状態ですね。トントンして声が聞けたら安心するとか、そういう感じですかね。やっぱり家族と同じだと思うので、お互いに心配っていう気持ちがあるんですけど、来てきていますね。50-B9</p>

<p>■ 夜間の物音 (4)</p> <p>寝るときに鍵を閉めない 148-G6/ 四六時中見てる人がわかる 16-A6/ 夜中音が聞こえる 30-B3/ 物音でわかる 44-B7</p> <p>夜寝るときは、大体の方が自分の寝室は閉めないで寝て。(中略) ベッドの足元にあるから鳴らしますと、皆さんがその音聞いて、どうしたのって廊下から顔出してくれる。だから、夜寝るときは閉めない。事務所まで来れば鍵がありますから、あれだけでも、やっぱり寝るときは皆さん閉めてないと思いますね。(中略) やっぱりいざってときは全然 1 人じゃなくて、心強いですよね。148-F6</p>
<p>■ 朝の安否確認 (3)</p> <p>ラジオ体操 7-A3/ 朝のスミージー 57-D7/ 新聞を届ける 97-D6</p> <p>ラジオ体操は、朝 9 時になったら下の人が係で、体操のあれを流してくれるの、(中略) それ鳴ったらみんな出てきて、やっぱり出てこないとかあるかなって分かるでしょ。そういうようなことで、先輩がそうやってやってきた、みんながそれに倣ってやっています。(中略) いちいちドア開けていくのも悪いから。8-A3</p>
<p>■ 医療 (3)</p> <p>包帯を取り替える 112-E1/ 薬を切ってあげる 68-D10/ 保冷剤をもっていく 68-D10</p>
<p>■ 認知症を補う情報提供 (2)</p> <p>認知症を補う情報提供 54-B9,17-A6</p> <p>やっぱり認知になると、朝だか昼だか、いつのご飯食べるんだか分かんないでしょう。(中略) だから、「晩のご飯よ」って言うと、「あら、もう晩ご飯なの」とか言って、起きてくるんだけど。それで、見守りっていうか、できることであれば、それ以上はできませんから。17-A6</p>
<p>■ 家族との連絡 (1)</p> <p>電話をかけてあげる 12-A6</p>
<p>■ 運営者や家族に報告 (3)</p> <p>運営者に状況報告 16-A6/ 役所の手紙の確認 31-B3/ 家族への情報提供 31-B3</p> <p>四六時中に一緒に見てる人が一番よく分かるんじゃないかなと思って。こういうことあったよ、とか何とかって。私は教えてあげるんですよ。〇〇さん (GL 理事長) なんかにね。(中略) そういうことは教えてあげないと、四六時中見てる人でないと分かんないんじゃないかしらと思ったりしてね。16-A6</p>
<p>■ 荷物 (2)</p> <p>荷物の受け取り 40-A6/ 重いものを持つ 97-D6</p>
<p>■ 交流 (2)</p> <p>いろんなひとが来る 52-B9/ 交流 58-D7</p>
<p>■ その他 (1)</p> <p>柔軟剤の蓋を緩める 69-D10</p> <p>洗濯機置いてて、力がなくて柔軟剤のふたが開かない人がいらっしやるの。(中略) だから私、そこを通るたびにちょっと緩めてあげる。そんな程度。69-D10</p>

面での安心に言及するものがあった。食事を呼びにいく(4)、配膳下膳(4)など、食事を共にするというグループリビングの特徴に関連したものあるいは、デイサービスの見送りや出迎え(2)、話し相手(3)、病院の付き添い(1)など、同居家族が行う類のものも見られた。さらには、気遣い・気配り・見守り(6)と表現されるもの、ちょっとした声かけ(6)、あるいは夜間の物音(4)で互いに気遣う様子が伺えた。同様に相手もしてくれているだろう、という信頼感も感じられる。ラジオ体操や手作りスージーや新聞を届けるなどの活動は朝の安否確認(3)として、相手の負担にならないように工夫されている。

医療(3)についても、包帯を取り替える、薬を切る、保冷剤を持っていくなど同居家族が行う類のものといえる。認知症を補う情報提供(2)でも、相手に負担にならないことを考えた、ささいな表現ひとつの支援である。運営者や家族への状況報告(3)は、やはり日常をともにしているからできることである。

その他では、「柔軟剤の蓋を緩める 69-D10」などがあり、とても些細な、それでいてお互いの心を通わせあえる相互支援が確認できた。これらは同じ心身能力である高齢者同士だからこそ判り、気遣える、些細な相互支援といえる。

6. 結論

以上、本稿では、高齢者グループリビング(EGL)において、居住者に対するインタビュー調査を元に、その1)居住継続意向、2)居住限界、3)居住継続を支えているもの、4)EGLにおける居住者同士の交流の実態について、特に認知症発症時に着目して明らかにした。

1)居住継続意向では、居住者が、これまでの退去した居住者の様子から、高齢期の心身能力の低下を学び、居住限界があることを認識しながらも、「最期まで暮らす」ことを願う様子が明らかになった。自分が居住限界に近いと認識している居住者からは、いつまで居住できるのか不安を感じる様子も伺えた。

2)居住限界については、1)と同様、これまでの認知症を発症した居住者の経験をもとに、軽度～中度の認知症の居住者に対しては、「お互い様 明日は我が身」として、穏やかに暮らせるように気遣ってきた様子が伺えた。一方、居住者の拙速な対応で認知症を悪化させたことを悔やむなどの経験も見られた。同時に居住者間の関係性により、居住継続できるかどうかが一律ではないことも示唆している。一方で、夜間外出や火事の安全面を著しく脅かすトラブルは、やはり居住限界につながることも確

認できた。高齢者グループホームとどちらが適切か、という問いについて、認知症となった当事者の居住者の自尊感情を考慮しながら考察されていた。

3)居住継続を支えているものとして、居住者同士の相互支援の具体的な内容が明らかになった。夜間時の緊急対応など、スタッフ顔負けの支援もあれば、「互いに気遣う」「認知症居住者に対してさりげなく情報を補う」あるいは「柔軟剤の蓋をゆるめておく」など、極めて些細な、それでいてお互いの心を通わせあえる相互支援が確認できた。これらは同じ心身能力である高齢者同士だからこそ判り、気遣える、些細な相互支援といえる。

4)居住者同士の交流の実態については、居住者によりさまざまだったが、多くが「みんなが仲良くなってよい」と留保つきの関係性をグループリビングのそれとして肯定的に受け止めている様子が伺えた。

特に、相互支援に関する居住者のコメントは、居住限界を抱えながらも、あえてEGLに住む価値を垣間見せるものがあった。極めて些細な相互扶助ながら、互いに気遣ってくれているだろうという互いの信頼関係の醸成されており、単にサービスを受けることでは感じられない心の豊かさがEGLの本質といえるのかもしれない。

一方で、居住限界に近づく居住者からは不安を感じる様子が伺えた。今後、GLの居住者が老いゆくことに安心できるように、GLの居住限界を迎えた後の住まいとの連携などが必要であると考えられる。

謝辞

研究の遂行にあたっては、グループリビングの運営者、居住者のみなさまにご協力いただきました。ここに感謝の意を表します。また、土井原奈津江氏、中西真弓氏、近兼路子氏、林和秀氏とともに共同研究として行いました。本研究は公益財団法人JKA 2020年度公益事業振興補助事業にて行われた研究の一部をもとに、執筆者の担当箇所について、検討を深め発表するものです。また一部はJSPS科研費JP19K14022の助成を受けて実施しました。

注釈

- 注1) 参考文献1) p29 参照
- 注2) 参考文献2) 参照
- 注3) 参考文献11)p43 参照
- 注4) 参考文献8)9)10) 参照
- 注5) 参考文献3)4) 参照
- 注6) 参考文献5) 参照
- 注7) 参考文献6)7)

注8) 本研究は、公益財団法人JKA 2020年度公益事業振興補助事業にて行われた研究の一部をもとに、執筆者の担当箇所について、検討を深め発表するものである。表1～7,表9,表11,表12は、参考文献11)にて既発表のものに一部編集・追記されている。

注9) あくまで運営者を通して行った調査であり、回答者が運営者の目に触れることを恐れて発言を控える可能性は否定できない。

参考文献

- 1) 平成30年度 高齢者の住宅と生活環境に関する調査結果,内閣府,2018
- 2) 高齢者グループリビング運営協議会 web site,<https://www.glnet-groupliving.org/>(2022,7,4 最終アクセス)

- 3) 土井原 奈津江, 大江 守之: 高齢者グループリビングの持続的運営に関する研究 - 先駆的事例 COCO 湘南台の15年の経験にもとづく考察 -, 日本建築学会計画系論文集, vol.80, No.715, pp.2071-2079, 2015.9
- 4) 土井原 奈津江, 大江 守之: 高齢者グループリビングの成立構造と社会的普及に関する研究 - プロトタイプ COCO 湘南台と普及モデルの比較を通して -, 日本建築学会計画系論文集, vol.80, No.716, pp.1913-1921, 2015.8
- 5) 宮野 順子, 高田光雄: 高齢者グループリビングにおける居住者間関係と生活の質 - 「グループハウスさくら」の運営履歴を通して -, 日本建築学会計画系論文集, vol.81, No.724, pp.1363-1372, 2016.6
- 6) 宮野 順子 絹川麻理 高田光雄: 小規模多機能型居宅介護サービスと連携する 高齢者の共同居住住宅の運営実態 - 兵庫県相生市 M の家の居住者履歴を通して -, 日本建築学会 住宅系研究報告会論文集 11 pp.135-140 (2016)
- 7) 高齢者グループリビングの運営実態 - 北海道北見市にある「じゅげむ館きたみ」の居住者履歴を通して - 日本建築学会住宅系研究報告会論文集 12, pp.243-248, (2017)
- 8) 土井原奈津江, 中西 眞弓, 宮野 順子, 大江 守之, 上野 勝代: 高齢者グループリビングの社会的普及に関する研究 (その1) - 小規模多機能型居宅介護を利用した高齢者グループリビングの可能性 -, 2017年度日本建築学会大会 (中国) 学術講演梗概集 DVD, 建築社会システム, pp.83-84, (2017)
- 9) 中西 眞弓, 土井原奈津江, 宮野 順子, 大江 守之, 上野 勝代, 高齢者グループリビングの社会的普及に関する研究 (その2) - 居住ボランティアによる居住者層拡大の可能性 -, 2017年度日本建築学会大会 (中国) 学術講演梗概集 DVD, 建築社会システム, pp. 85-86, (2017)
- 10) 宮野 順子, 土井原奈津江, 中西 眞弓: 高齢者グループリビングに対する有料老人ホーム等の登録に関する行政指導の現状, 2020年度日本建築学会大会 (関東) 学術講演梗概集 DVD, 建築社会システム, pp. 129-130 (2020)
- 11) グループリビング運営協議会: 2020年度 JKA 報告書 [https://www.glnet-groupliving.org/news/archives/68\(2022,7,4最終アクセス\),2021](https://www.glnet-groupliving.org/news/archives/68(2022,7,4最終アクセス),2021)